

指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和6年度		
施設名	秋田県田沢湖スキー場	設置年	昭和 45 年
所在地	仙北市田沢湖生保内字下高野73-2		
指定管理者	田沢湖高原リフト株式会社		
県所管課	観光戦略	課	観光地域マネジメント推進 チーム

1 施設の概要

設置目的	スポーツ及び観光レクリエーション活動の振興を図り、県民の健康の増進や県内外の交流を促進することで地域の活性化を図る。					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における施設の位置付け・目標					
	人口減少の進行やデジタル技術の進展等のほか、コロナ禍により旅行ニーズの個人化・個性化が一層強まるなど、観光を取り巻く環境が大きく変化している中、自立した稼ぐ観光エリアの形成に向けた地域観光の中核施設					
	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として施設に求められているもの					
	スポーツ及び観光レクリエーション活動をするための施設や設備の安全・安心な運営管理					
施設の面積	敷地面積1,775,538.76㎡、延床面積(公衆便所を含む)5,406.54㎡					
主な設置施設	管理センター、スキーセンター、かもしかハウス、銀嶺ハウスなど					
指定管理業務の内容	料金制	有（完全利用料金制）				
	料金設定	別紙				
	サウンディング実施対象施設※	○				
	指定期間	R3.6.1		～	R8.5.31	
	営業期間・時間	冬期:12月～4月 午前9時(土休日8時30分)～午後4時 夏期:4月～12月 午前9時～午後4時				
	秋田県田沢湖スキー場に関する次の業務 ①管理運営業務②施設設備維持管理業務③企画運営業務④事務処理業務					
自主事業の内容	・スキー場内のレストラン施設における食事の提供 ・スキー場内においてレンタルスキー、託児所、売店の営業 ・各種大会の実施 ・グリーンシーズン営業における、レストラン営業及び各種アクティビティの運営					
直近3年の年間利用者数	R4	96,573 人	R5	93,521 人	R6	102,771 人
直近3年の年間利用収入	R4	170,799 千円	R5	194,657 千円	R6	221,637 千円
直近5年の収支決算(単位:千円)		R2	R3	R4	R5	R6
収入 計		204,931	242,601	297,055	318,079	382,639
利用料金収入		118,909	134,765	170,799	194,657	221,637
指定管理料		0	0	0	0	0
その他収入		86,022	107,836	126,256	123,422	161,002
支出 計		245,434	265,851	293,141	307,754	361,468
人件費		99,606	100,599	107,891	113,286	129,451
光熱水費		24,482	29,995	36,401	42,143	44,934
修繕費		18,799	16,924	29,967	32,011	36,550
外部委託費		2,170	2,238	2,256	2,377	2,404
その他経費		100,377	116,095	116,626	117,937	148,129
差 引		▲ 40,503	▲ 23,250	3,914	10,325	21,171

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の3年前にサウンディング(官民対話)を実施する。

2 観点ごとの評価

<観点Ⅰ> 施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的（施設の目指す姿）を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

(R6年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要)

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和6年度 の目標	100,000人
--------------	----------

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	実績	102,771	達成率	102.8%	
	具体的な 取組と その効果	スキー大会・スキー教室の誘致、食事などの料金改定による付帯収入の見直し、秋田県冬アソビ割の効果等により、昨年に続き増収となった。12月の降雪が多く、スキー場の営業開始が前倒しできたことも目標達成に寄与した。また、眺望ブランコ等によりグリーンシーズンの集客にも取り組み利用者の拡大に務めた。			
直近3年 の実績	年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	目標	90,000	91,000	100,000	
	実績	83,361	96,573	93,521	
	達成率	92.6%	106.1%	93.5%	
令和7年度 の目標 (設定根拠)	目標	105,000人			
	設定根拠	近年の利用者実績や増加傾向を基に設定した。インバウンド客や県外利用者の増加に向けた営業活動やスキー大会・スキー教室の誘致活動を通じて集客するとともに、グリーンシーズンの営業を更に充実し、目標達成を目指す。			

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

<観点Ⅰ>の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	A	シーズン初めの12月は、降雪が多く順調なスタートとなり、積雪が安定したシーズンとなった。県外客やインバウンドも増加傾向にあり、加えて大会誘致などにより、利用者は10万人を超え、周辺の観光施設にも好影響をもたらした。
	県 (所管課)	A	インバウンドや秋田県冬アソビ割等の効果がみられ、目標である利用者100,000人を達成した。通年で集客できるよう、グリーンシーズン営業に取り組んでいるところであり、SNSを活用したPRを積極的に行い、利用者獲得に注力していただきたい。

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

また、施設の設置目的（施設の目指す姿）を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

＜観点Ⅱ＞ 施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組

【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度 令和6年度 の実績	実績	90.9%		
	具体的な 取組と その効果	アンケート調査結果から令和6年度利用者満足度は90.9%となった。多くの人が楽しめるスキー場としてスノーランドやスノーパークを拡充したほか、レストランメニューやオリジナル商品を充実させたことが満足度に繋がった。また、秋田県冬アソビ割でのパック商品も好評でお客様の評価が高かった。		
利用者満足度 の状況 (直近3年)	R3年度	R4年度	R5年度	
	87.1%	87.9%	87.6%	

＜観点Ⅱ＞の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	A	楽しいスキー場づくりの取り組みが県内外・国外の利用者から評価され、また、SNSでの情報提供やお客様のご意見に可能な限り対応したことが高い満足度の実現につながった。
	県 (所管課)	A	誰もが楽しめるスキー場の整備を行っている他、お客様のご意見に対応し利用者満足度を向上させている。

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: 満足度80%以上 B: A及びC以外 C: 満足度60%未満

＜観点Ⅲ＞ 効率性の向上等に関する取組

(1)経費の低減

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	経費の 低減実績	最低賃金の上昇や物価高、降雪量の増による燃料費の増加のほか営業日数・利用客の増による経費の増加もあり、全体的に大幅な経費の増となっているが、収入の伸びが対前年比20.3%増に対して、仕入原価を含む経費の増加率が4.4%減となっており、収益改善は実現している。
	具体的な 取組と その効果	ボイラーの燃焼調整や照明設備のこまめな消灯、LED化等により水道光熱費は対前年比で6.6%増にとどめた。

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

(2)収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	収入の 増加実績	利用料金収入は対前年で26,980千円(対前年比113.9%)増加、総売り上げで64,560千円(対前年比120.3%)増加した。
	具体的な 取組と その効果	令和6年度は県外客やインバウンドの利用が増加したことから、客単価の高い利用者向けのレストランメニューや売店商品を充実させたほか、秋田県冬アソビ割による効果により売上げが増加した。

<観点Ⅲ>の評価

評価 欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	B	収支改善は進んだものの、賃金や物価高騰および老朽化している施設や設備の修繕により改善額は縮小した。経費の削減は厳しい状況にあるため、コスト上昇分の適切な価格転嫁や施設の大規模改修について検討が必要だと認識している。
	県 (所管課)	B	原油価格高騰や気候変動等の影響に伴う光熱費の増加、設備修繕や部材購入等の施設維持管理費の増加はやむを得ないものとする。支出増加につながる不測の事態は今後も発生しうるため、経費の低減と収入増加につながる効率的な運営に努めていただきたい。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上改善

B: A、C以外

C: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上悪化

<観点Ⅳ> 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	○人員配置 施設の管理運営に必要な人員を配置しており、サービス提供に支障は生じていない。 ○職員の資質向上 スタッフ研修の実施や各種資格取得を推進している。 東北索道協会などで職員の研修を実施している。 ○地域や関係団体等との連携 イベント開催への協力や参加など、地域で活動している団体と連携を図っている。 ○安全対策 施設の点検結果に基づき的確・迅速に修繕を行い、利用者が常に安全に利用できる状態を保っている。 ○危機管理等 事故防止マニュアル等及び緊急時連絡体制を整備している。 安全衛生に関する講習や駒ヶ岳噴火に関する訓練に参加して危機管理意識を高めている。
--------------	--

＜観点Ⅳ＞の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	A	実績報告書に記載のとおり、施設の管理運営等、指定管理業務を適正に行っている。また、大会の誘致やイベントの開催・参加、県内の小学生リフト1日無料招待等を通じて地域に貢献している。
	県 (所管課)	A	施設の安全な管理運営にあたり、スタッフ研修や他団体での職員研修など職員の資質向上や施設の点検を的確に実施している。

【評価基準】 A:順調(改善点なし)、B:概ね順調(重大な問題点なし)、C:改善が必要(重大な問題点あり)

県(所管課)の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

○県の施策の達成状況(施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等)
仙北・田沢湖地域のスポーツ及び観光レクリエーション活動の拠点として利用され、また、周辺地域への誘客にも寄与している。
○施設運営の課題
1970年に建設されてから55年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、各種設備等の修繕を計画的に実施していく必要がある。
○今後の方向性(県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等)
利用者の安全や利便性の向上を図るための施設修繕を実施し、引き続き、仙北・田沢湖地域のスポーツ及び観光レクリエーション活動の観光拠点施設として周辺地域への誘客を図る。

【外部有識者委員会による評価(提言):令和5年度実施】

※今年度評価対象施設は、外部有識者委員会終了後、行政経営課が記載の上で公表する。

評価(提言)
○施設の管理運営状況について(＜観点Ⅰ＞～＜観点Ⅳ＞に対するコメントを記載)
・R4年度の利用者は大きく増加しており、評価できる。県南地域の冬季観光・スポーツ拠点として今後も尽力いただきたい。 ・国内スキー人口が減少する中、インバウンド誘客対策について検討が必要と考える。特に、最寄りの田沢湖駅は新幹線停車駅であるが、当該駅から離れている立地状況を踏まえ、誘客のための駅からスキー場までのアクセス対応等について検討が必要と考える。 ・R4年度は黒字となっているが、過去の収支は厳しい状況となっていることから、経営改善について検討が必要と考える。
○県の施策達成に向けた施設運営について (県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方を踏まえてコメントを記載)
・次期公募に当たっては、過去の収支状況に鑑み、利益確保対策等に係る指定管理料抛出の必要性及び選定基準等に関して検討が必要と考える。また、更なる販促活動等の方向性についても検討が必要と考える。 ・索道設備について、人身事故に繋がる可能性もあることから、限りある財源の中で安全性が担保できない場合は、除却等も含めた今後の対応方針について検討が必要と考える。

【外部有識者委員会による評価(提言)を踏まえた今後の対応方針:令和5年度策定】

今後の対応方針
指定管理者(施設の管理運営等について今後の対応方針を記載)
・インバウンド客や県外客の拡大は経営改善を図る上での最大の課題であることから、令和5年度に韓国・台湾・中国・オーストラリア等をターゲットとした商談会(オンライン含む)やフェア、県外でのPRイベント等に積極的に参加しており、今後も継続的に取り組む。 ・スキー場へのアクセス改善を図るため、JR田沢湖駅からスキー場を経由して乳頭温泉に至るバス路線について、スキーハウス「レラ」前を経由するようにルート変更を運行会社に申し入れているが、現状では新幹線との乗り継ぎ時間の関係で実現しておらず、今後も働きかけを継続していく。 ・今後の経営改善に向けては、全体的なコストの削減を進めつつ、純粹にスキーを楽しみたいお客様に加え、雪遊びや自然とのふれあいの場、食事や喫茶の場、美しい景色を楽しむ場などスキー場の持つ多面的な機能を一年を通じて楽しめる施設への転換を進め、稼ぐ力を計画的に高めていく。
県所管課(県の施策達成に向けた施設運営等について今後の対応方針を記載)
・次期公募に係る完全利用料金制以外の方法の採用や選定基準等については、物価上昇や最低賃金上昇等の動向を踏まえつつ、サウンディングにより民間事業者等から意見を聴取の上、判断する。また、販促活動等については効果的に行われるよう指定管理者と協議する。 ・安全を第一に適切な施設運営を指定管理者に指導するとともに、安全性に問題がある設備については、速やかに改修・更新を行うとともに、必要な修繕・更新が行われない場合は、休止や除却を行う。

【今後の対応方針の進捗状況について】

※今後の対応方針策定済みの施設について、策定翌年度の評価対象年度から記載

今後の対応方針の進捗状況
指定管理者(施設の管理運営等について今後の対応方針に係る進捗状況を記載)
・インバウンドの需要拡大に向けて、北米を中心としたパスの販売や海外Travel Expoへの参加、海外旅行エージェントの視察対応など集客に向けた取り組みを行っている。 ・スキー場へのアクセス改善のためバス事業者との協議を継続している。 ・スノーランドやスノーパークの拡充や夏期の営業内容を徐々に増やし、集客に努めている。
県所管課(県の施策達成に向けた施設運営等について今後の対応方針に係る進捗状況を記載)
・次期指定管理者の公募に向けサウンディングを実施し、望ましい管理運営手法等について意見聴取した。また、今後の販促活動について、インバウンド客や県外客を継続的に取り込めるよう指定管理者と協議を行っていく。 ・設備において利用者の安全性に問題がでないよう、内容を精査した上で修繕・更新を行った。